

嶺北地域内の公共交通についてのご意見等

○ 聞き取り対象者

嶺北地域公共交通協議会委員のうち、利用者・教育機関・医療機関（病院）・社会福祉機関・商工機関・観光機関

○ 聞き取り内容

1) 嶺北地域公共交通の現状の課題

〈本山町〉

- ・ 山間部において道幅が狭く、冬など雪が降り凍ったときに、利用者に乗せて運行が難しい（病院に行く日など）。
- ・ 大杉、高知方面行き最終便が、高校前発 16 時 01 分発の時間設定になっているため、バス利用の生徒は放課後の学習指導や、部活動指導が受けられない。
18 時 40 分頃の便を増便していただくと、学校生活を充実させる種々の指導が受けられる。

〈大豊町〉

- ・ 平成 17 年頃、庁内 NPO 法人が空白地区等での有償運送事業を計画したが、運行には至らなかった。
その後、町が「乗合タクシー事業」を平成 18 年 5 月に開始し、「福祉タクシーチケット助成事業」「通院タクシー事業」もあり高齢者に利用されている。町民バスも無償化されているが、運行は主線だけになっている。
社会福祉協議会では、あったかふれあいセンター事業で「大豊町総合ふれあいセンター」を拠点とした通所型サービスを行っている。利用者を送迎し、利用者はその便で通院、買い物、金融機関などの用事を済ませている。（庁内 9 グループ・月 2 回程度）
自家用車を所有しない世帯、空白地域在住の方への何らかの対策が必要と思われる。

〈土佐町〉

- ・ 駅からのつながりが少なく、高知市内まで車で送迎しなくてはいけないので、結局バスの利用が少なくなる。空港から土佐町へのアクセスが悪すぎる。
- ・ 福祉人材を送迎している病院もあり、学校や、役場職員も市内から通勤している事もあり、通勤に利用できる様格安な運行料金にならないか。
- ・ 自宅からバス停までの送迎の仕組みとともに協議できなければ、公共交通の未来はない（高齢者のため）。

〈大川村〉

- ・ 別紙のとおり

2) 嶺北地域公共交通の現状を踏まえた改善策のアイデア等

〈本山町〉

- ・ 軽車両などを利用すればどうか
- ・ 高齢者から子供まで公共交通を利用するんだという意識付けに取り組む事も大事ではないか

〈大豊町〉

- ・ 先進地の多様な事例検討を行い、嶺北地域でもできることを考える。
空白地域での地域支え合い型の「移動サービス」もその一つと考える。

〈土佐町〉

- ・ 高齢の方は難しいが、比較的若い方は、健康の為に歩き、また時々公共交通機関の利用を推進する取組を展開すればどうか。
- ・ 現在の路線を維持する方向では、利用者の利便性は上がらないと考える。
- ・ タクシー等の相乗りの制度をつくった方が早い。若い方でも、スマートフォンでの相乗りアプリの利用の方が利用しやすい。

〈大川村〉

- ・ 別紙のとおり